

和歌山県白浜町の海岸へのハチジョウダカラ *Cypraea mauritiana* (腹足綱, タカラガイ科)の出現

新稲 一仁*・久保田 信**

Kazuhito NIINA and Shin KUBOTA: Occurrence of *Cypraea mauritiana* (Gastropoda, Cypraeidae)
at coast of Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

ハチジョウダカラ *Cypraea mauritiana* LINNAEUS, 1758 は、腹足綱タカラガイ科に属する大型種で、インド-西太平洋の熱帯から温帯にかけての岩礁や珊瑚礁に生息し、他種と同様に雌は産卵後に卵が孵化するまで保護する性質をもつ (小林, 2000; 池田・淤見, 2007)。本種は和歌山県下では御坊市から串本町まで散発的に記録されているものの、白浜町沿岸では記録がなされていない (小山, 1993; 久保田・小山, 2002)。ところが、近年、少数ながらも白浜町の海岸 2 箇所から本種を発見できた

ので、未発表データも含めて報告する。

材料と方法

2004年1月より2009年8月までの5.5年間、和歌山県西牟婁郡白浜町の海岸の2箇所、田辺湾口付近の海岸 (京都大学瀬戸臨海実験所の北浜や番所崎)と外海に直接面した海岸 (鴨居漁区海岸)で、本種の生息調査を念入りに、毎日とはいかなくともできるだけ多くの日数をかけて、実施した。前所では、久保田による磯浜への漂着



図1 鴨居漁区海岸で発見されたハチジョウダカラ *Cypraea mauritiana*. ①~③: 幼若個体 (漂着死貝); ④~⑤: 生きた幼若個体; ⑥~⑦: 亜成貝 (漂着死貝); ⑧~⑩: 成貝 (漂着死貝).

* 〒649-2334 和歌山県西牟婁郡白浜町才野1622-222

** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama-cho 459,
Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

物調査および岩礁海岸でのシュノーケリング調査（水深数mまで）で、後所では新稲による岩礁海岸の水深1mのタイドプール壁面を中心とした生貝の探索および磯浜での漂着調査を行った。

結 果

1. 鴨居漁区海岸における調査

死亡漂着した幼若個体（図1, ①～③）4個体と生きた幼若個体（図1, ④～⑤）8個体を、1月と2月の寒冷な時季に採取した。死殻ではあるが、亜成貝が2個体（図1, ⑥～⑦）、成貝が破片を含む8個体（図1, ⑧～⑩）を、1月から5月にかけて採集した。すべての貝殻標本は新稲が保管しているが、未成熟個体の貝殻は、わずかの光線が当たる場所でも速やかに退色し、薄い殻のため貝殻の縁が簡単に崩れているものもある。なお、本種を現地の海水を満たした小型水槽で弱い水流をまわしながら飼育したが、長生きさせることはできなかった。

2. 瀬戸臨海実験所周辺の海岸における調査

今回の調査期間中にはまったく発見できなかった。しかし、それ以前にただ一度きりではあるが、鉛山湾に面した磯で、2002年12月22日の午後の干潮時に、

生きた亜成貝を1個体発見した（久保田、未発表）。

考 察

本種は今回の調査海岸には多数が出現せず、上記の2002年の希少1例も含め、冬季に海岸付近に少数が発見されたのみで、しかも生体が観察された機会はたいへん稀で未成熟個体のみに限定されていた。本種が、今回、外海にじかに面した海岸からだけ発見されたことから、流れの速い場所を好むと推察され、このことは、池田・淤見（2007）が、本種は波あたりの強い低潮線直下に多産し、10m以浅に生息すると記している点と一致した。

引 用 文 献

- 池田 等・淤見慶宏：2007. *in* “タカラガイブック”，10, 16-17, 東京書籍，東京。
- 小林安雅. 2000：巻貝の仲間. *in* “ヤマケイポケットガイド⑩海辺の生き物”，109, 山と溪谷社，東京。
- 小山安生. 1993：和歌山県のタカラガイ科貝類. *南紀生物*, 35 (2), 117-123.
- 久保田 信・小山安生. 2002：番所崎，特に“北浜”（和歌山県白浜町）へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録（1）. *南紀生物*, 44 (1), 69-76.